

県立奈良養護学校について

教育委員会事務局
特別支援教育推進室、学校支援課

【概要】所在地：奈良市七条町135番地
障害種別：肢体不自由教育・病弱教育
児童生徒数：126名（通学生87名・訪問教育生39名）

学部別人数：	小学部	中学部	高等部	合計
	57名	36名	33名	126名

職員数：137名

教員等(看護師資格を持つ職員を含む)	事務職員等(給食調理員、業務員、バス介助員を含む)
114名	23名

通学エリア：奈良市、生駒市、大和郡山市、天理市、生駒郡（安堵町、斑鳩町、三郷町、平群町）、山辺郡（山添村）
北葛城郡（王寺町、河合町）

スクールバス：3台運行（奈良方面・生駒方面・天理方面）



◆施設の概要

- ・昭和56年竣工
- ・構造 RC造（平屋）
- ・耐震化 平成28年耐震化済
- ・土地面積 18,565㎡
（うち運動場4,543㎡）
- ・校舎面積 4,672㎡
- ・屋内運動場 600㎡
- ・屋内プール 513㎡

◆施設の現状・課題

- 施設・設備全体の老朽化
- 増加する多様な児童生徒への対応

◆施設の現状

- 築42年のため、施設全体が老朽化
 - ・校舎壁面の亀裂、屋根の傷み、雨漏り、床材の浮き
 - 敷地内アスファルトの亀裂や剥がれ、埋設管の老朽化
 - 給食施設の老朽化と狭隘化等
- 近年の大規模修繕
 - ・令和元年度 受変電設備改修・屋内運動場空調設備設置工事
 - ・令和2～5年度 給水設備改修工事
- 児童生徒の障害の重度重複化への対応が既存施設では困難
 - ・大型（多機能）化する車椅子や支援機器を用いるスペースの確保が必要
 - ・在籍児童生徒の約半数が医療的ケア児で、医療機器やベッド等を設置して学習するスペースの確保が必要
 - ・重度重複の児童生徒に対応したトイレルールの改修が必要

今後の奈良県立特別支援学校の在り方について

1. 奈良県の特別支援学校の概要

県立奈良東養護学校

県立奈良養護学校

県立奈良西養護学校

県立盲学校

県立ろう学校

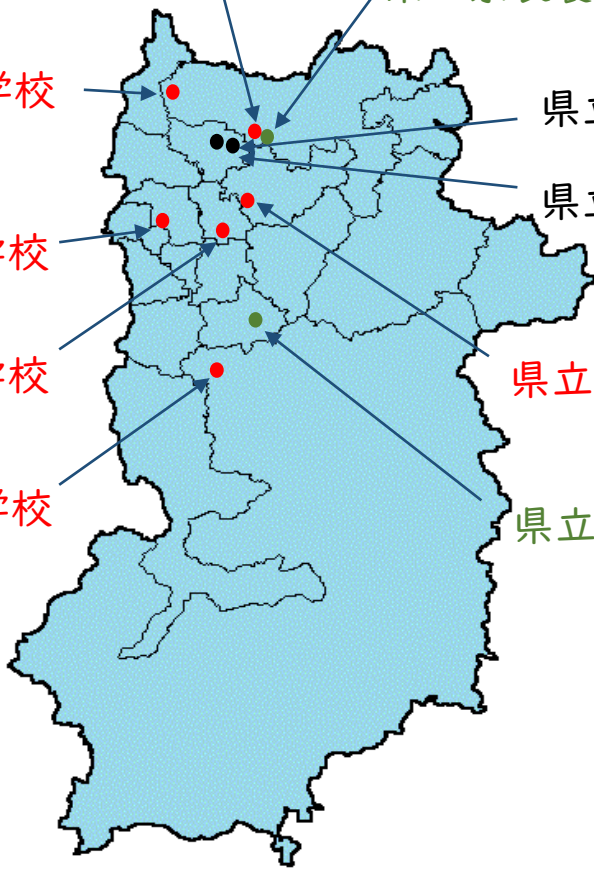
県立西和養護学校

県立高等養護学校

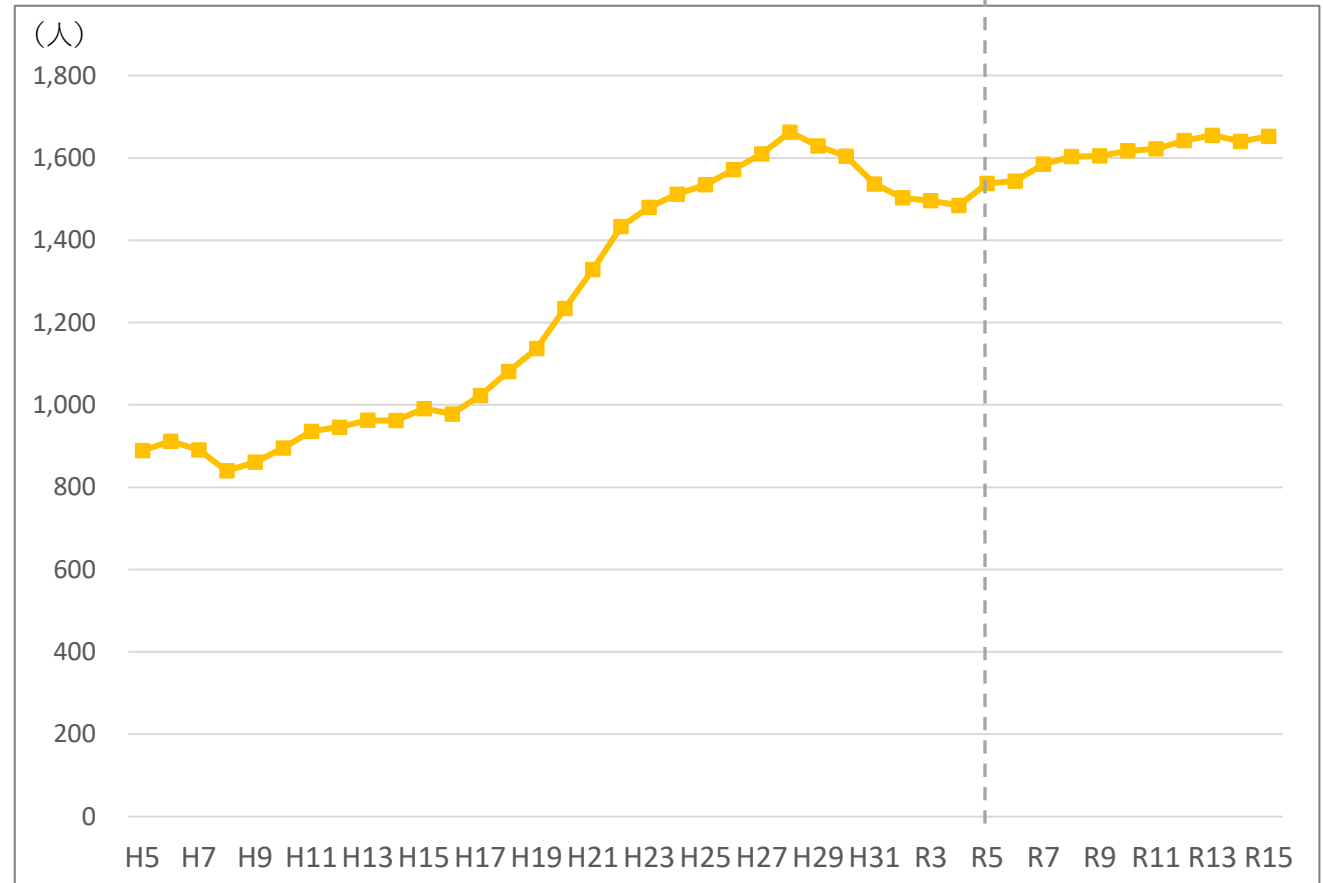
県立二階堂養護学校

県立大淀養護学校

県立明日香養護学校



「奈良県立特別支援学校在籍者数推移」



種別	学校名	所在地	建築年／築年数(増築年度)
知的	県立奈良東養護学校	奈良市七条2-670	昭和46年／築52年(S52、S54、S60、H1、H5)
	県立奈良西養護学校	奈良市帝塚山西2-1-1	昭和59年／築39年(S63)
	県立二階堂養護学校	天理市庵治町358-1	昭和62年／築36年(H11、H17)
	県立西和養護学校	北葛城郡上牧町下牧1010	昭和59年／築39年(H6、H19)
	県立大淀養護学校	吉野郡大淀町下湊414-1	昭和50年／築48年(S53、H2)
	県立高等養護学校	磯城郡田原本町宮森34-1	昭和51年／築47年(S53、S56、H1)
肢体・病弱	県立奈良養護学校	奈良市七条町135	昭和56年／築42年(H3、H9)
	県立明日香養護学校	高市郡明日香村川原410	昭和41年／築57年(H8、H27)
視覚	県立盲学校	大和郡山市丹後庄町222-1	昭和44年／築54年(S50、S58、H1、H5)
聴覚	県立ろう学校	大和郡山市丹後庄町456	昭和44年／築54年(S58、S62、H8、H12)

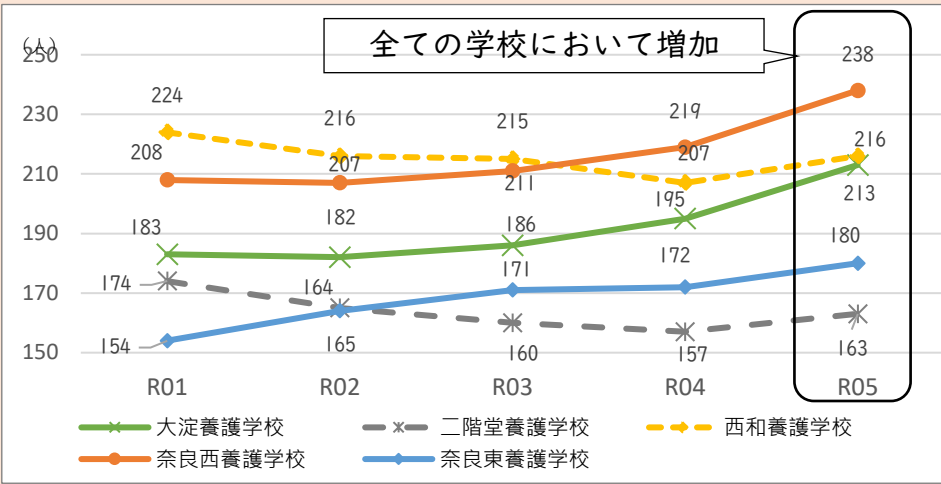
2. 奈良県の特別支援学校に関わる現状と課題

知的障害特別支援学校の現状

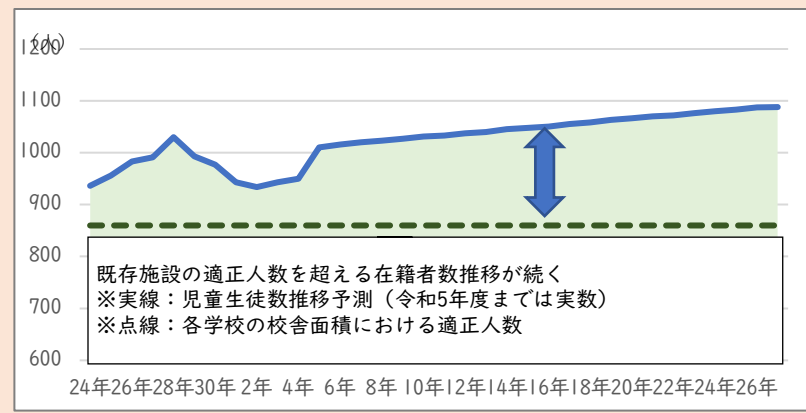
◇児童生徒数が増加し、施設が狭隘化

- ・ 知的障害特別支援学校の在籍児童生徒数が増加。今後も特別支援学校在籍者数の増加の見込み
- ・ 在籍者数は既存施設の適正人数（5校合計890人）を超過し、今後も超過した状態が継続

「奈良県立知的障害特別支援学校在籍者数推移」



「知的障害特別支援学校在籍者数推移予測（5校合計）」 「特別支援学校設置基準適合状況（令和5年度）」

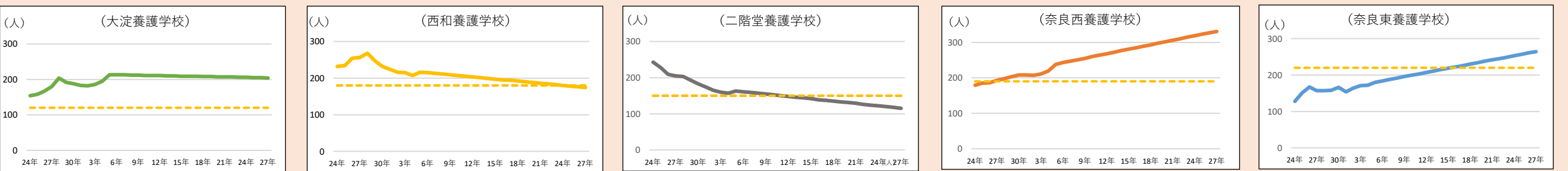


	R5児童生徒数(人)	実際の校舎面積(m ²)	基準上の校舎面積(m ²)	適合状況
大淀養護	213	5,496	7,678	×
西和養護	216	7,346	7,526	×
二階堂養護	163	6,197	6,274	×
奈良西養護	238	7,386	8,010	×
奈良東養護	180	8,874	6,872	○

推計の方法
 ・「特別支援学校の教室不足解消に向けた好事例集」（文部科学省）に掲載された熊本県の推移予測を参照
 ・直近5年間の在籍率から近似曲線を割り出し推計

- ・ 特別支援学校設置基準を下回る学校4校／5校中
- ・ 給食室や運動場等を含む施設の狭隘化
- ・ 特別教室（視聴覚室や給食室等）の転用や教室を分割して応急的に対応

「知的障害特別支援学校5校における児童生徒数推移（H24～R27）」 ※実線：児童生徒数推移予測（令和5年度までは実数） ※点線：各学校の校舎面積における適正人数



肢体不自由特別支援学校の現状

◇施設が老朽化し、加えて狭隘化

- ・ 明日香養護学校及び奈良養護学校の施設全体が老朽化
- ・ 重度重複化により車椅子が大型（多機能）化
- ・ 在籍児童生徒の半数が医療的ケアを必要
- ・ 人工呼吸器を使用する児童生徒が増加
- ・ 児童生徒の実態により、教室内にベッドを設置して学習を実施
- ・ 教室が狭く、学習に必要な支援機器（歩行器や立位台等）の保管場所が不足

「特別支援学校在籍する医療的ケアを必要とする幼児児童生徒数の推移」

